逆子のツボ

●三陰交（サンインコウ）

「逆子の灸」に使われるツボのひとつで、婦人科疾患などに欠かせない有名なツボです。足の内側のくるぶしより指4本分上に位置します。
ここにお灸をしてると多くの赤ちゃんが元気に動き出します。
自宅で毎日お灸して頂くのもこのツボです。ここへのお灸は、別名「安産の灸」とも呼ばれ、逆子が治った後も自宅でお灸していると再び逆子になるのを防ぎ、お産も軽く分娩時間も短くなると昔から言われています。

●至陰（シイン）

足の小指で爪の外側の「至陰」は逆子治療には絶対欠かせないツボです。このツボには米粒の半分ほど大きさのお灸していきます。

※お腹や腰へ灸する事はありません。
※妊娠週数やお灸の状態により用いるツボが若干増減する場合があります。
※ご心配やご不明な点などがある方は、電話やメールなどでお問い合わせ下さい。

tel:03−3392−1051
メールアドレス:info@tenyudou.com
ホームページ:tenyudou.com

お灸の種類

●棒灸

スティック状のお灸で膝下の内側からくるぶしまで、心地良い温度のお灸で温めていきます。

●台座灸

薬局などで見かけるタイプのお灸です。
下の台座は灸熱を緩和してくれます。底がシールになっているので身体のどのような曲面にもお灸が出来ます。自宅で行なってもらうのがこのお灸です。お灸した部分がピンク色になるように行ないます。

●直接灸

足の小指で爪の外側の「至陰(シイン)」というツボに直接、米粒の半分の大きさのお灸を行います。小さいお灸なので線香で点火します。このツボへのお灸が「逆子」に対し大きな効果を発揮します。熱が通るようにお灸をするのでかなり刺激的です。

Q and A

Q、何回くらいで逆子は治りますか!?

A、一概に何回とはお答えできません。
それぞれ逆子の妊婦さんの身体状態により相違があります。おおよそ妊娠30週前後では、多くの方が数回の「逆子の灸」で改善されますが、週数が多くなる程その確率は低下します。
そして1回の治療でのお灸の回数も多くなります。

Q、お灸を続けてまた逆子に戻らない!?

A、逆子に戻る事はほとんどありません。
むしろお灸を続ける事で骨盤の底の筋肉が柔軟になり、「会陰切開」しない症例も、多く報告されています。

Q、お腹のハリが強いのですが!?

A、ハリ止め薬を服用している多くの妊婦さんが、「逆子の灸」の治療を受けに来られますが、問題もなく治療結果も良好です。
「逆子体操」を行なえないような場合も、「逆子の灸」が良い選択肢となります。

Q、自宅でやるお灸の場所が分りません。

A、大丈夫です。必要なツボは分かりやすいように、マークさせて頂きます。

Q、いつお灸すればイイの!?

A、既に座休などでお休みの方には午前中に行なうように、ご指導しています。夜もイイのですが夕食の準備や、お風呂に入ったりと何かと忙しいからです。
入浴の前後30分にお灸をすると火傷をして水膨れになりやすいのでやらないで下さい。
また食事の前後も同様です。

Q、他に気をつける事はありますか!?

A、逆子の方は「冷え」に注意しましょう。
意外に自宅では素足の方が多いです。
くるぶしが隠れる靴下を履きましょう。
ジュースやアイスクリームも程々に…

Q、健康保険は使えますか!?

A、自由診療の枠内なので使えません。
しかし、出産費用と同様に医療費控除の対象となりますので、発行した領収書は大切に保管しておいて下さい。